公立高校入試における聴覚障害対応の変遷

英語のリスニングを中心に

〇松藤みどり
（筑波技術大学　障害者高等教育研究支援センター）

KEY WORDS: 英語　リスニング　特別措置

（目的）

聴覚障害者の英語力を正当に評価するためには、聴解問題(リスニングテスト)に関して特別な措置が必要である。英検（英語能力検定試験）、TOEIC 試験、大学入試センター試験については、筆者らの働きかけ等によって、試験問題を文字化する、免除するなどの措置が取られている。

公立の高等学校の入学試験においては、平成９年度にはそうした措置が取られてないところが多かったが、調査を繰り返すうちに改善がなされてきたことがわかった。

19 年間の措置の変遷について、全体的な特徴および特定の都道府県の変化に着目して、傾向を分析する。当日は調査の過程で判明した国語の聴解問題導入や、撤退についても考察し、より良い方向を提言する予定である。

（方法）

1998 年、2006 年、2016 年に全国の都道府県教育委員会を対象に、前年度の公立高校の英語の試験における聴覚障害を持つ受験生に対する措置について、ほぼ同じ内容の質問紙調査を実施してきた。2 回目と３回目には過去の調査結果一覧を参考資料として質問紙に添付して送付した。

主な調査項目は以下の通りである。

１．本年度に入学(受験)した聴覚障害者の数（　　）人

２．英語の入学試験を受験するさいの配慮の種類

ア．別室で受験させた

イ．試験官が問題を読み上げた（読話）

ウ．聴解問題と同一の内容を，筆記形式で出題した

エ．聴解問題とは別の筆記形式の問題を出題した

オ．聴解問題の部分に見込み点を与えた

カ．その他

３．聴解問題の占める配点の割合（　　）％

４．聴覚障害者に対する措置に関する文書の名称

(結果)

聴解問題の占める割合の平均は H9 年 21.2%，H17 年 24.4%，H27 年 25.3%のように上昇していた。

措置の種類の変遷を表１．と表２．に示す。

表１．　配慮事項

	ア 別室	イ 読話	ウ 同一筆記	エ 別問筆記	オ 見込	カ その他
H 9	28	17	5	7	2	17
H17	33	20	7	7	4	27
H27	33	10	8	8	1	39

表２．　カその他の内訳（自由記述）の分類結果

	補聴器	字幕	座席	個別ﾌﾟﾚｲﾔｰ	音量調節	個別対応
H9	3	0	7	1	2	7
H17	4	4	8	4	3	11
H27	11	3	23	8	4	19

入学者数について「不明」の回答が増加したので、27 年度は国語の聴解問題に対する措置を調査する際に、受験者数を回答してもらった。その結果を併せて表３．に示す。

表３．入学者数と受験者数

	英語の調査			国語の調査
	9年度入学	17年度入学	27年度入学	27年度受験
北海道	秘	10	39	47
青　森	0	12	不	不
岩　手	0	2	2	2
宮　城	−		17	25
秋　田	0	7	4	
山　形	不		8	8
福　島	0	0	不	不
茨　城	1		不	9
栃　木	1	4	不	5
群　馬	不	不	不	
埼　玉			不	19
千　葉		不	不	のべ51 ※
東　京	不	不	不	10
神奈川	5		不	49
新　潟	2	4	5	6
富　山	−	4	6	8
石　川	2	3	不	不
福　井	0	3	0	不
山　梨	−		不	2
長　野	1	5	6	5
岐　阜		不	不	秘
静　岡	3		19	20
愛　知		不	不	45
三　重	2	0	3	3
滋　賀	1	3	不	9
京　都		不	10	のべ16 ※
大　阪			11	17
兵　庫	9		秘	秘
奈　良	1		1	1
和歌山	3		7	7
鳥　取	0	0	不	1
島　根	0	0	3	3
岡　山	不	3	秘	秘
広　島	不	不	6	6
山　口	不	秘	不	12
徳　島	13	11	11	11
香　川	秘	秘	3	4
愛　媛	1	5	1	1
高　知	0		5	
福　岡	不	11	19	20
佐　賀	0	不	5	5
長　崎	1	5	3	3
熊　本	不	2	不	
大　分	2	4	4	4
宮　崎	1		3	
鹿児島	0	3	秘	不
沖　縄	2	1	4	

不：不明，　秘：非公表，　ー：記載なし　※複数回実施

（考察）

配慮事項に関しては読話と見込み点が減り、その他が増え、中でも補聴器、座席、個別対応が増えた。受験者数が格段に増えた都道府県がいくつか見られる。

（文献）

松藤みどり（2017）公立高等学校入学試験における英語および国語の聴覚障害者に対する措置　筑波技術大学テクノレポート, Vol.24 No.2, p.22-26

(MATSUFUJI Midori)